

ゆの はら 湯之原



三村区は六字あり、
80年代までは全ての字で
盆踊りが行われていましたが、90年代には大野、
小森、小井、湯之原でなくなりました。
しかし2004年（平成16）に湯之原では復活しました。

原動力となったのは、音頭取りで大字旭出身の中西康廣さんでした。中西さんは1983年（昭和58）に新任教員として神納川区の五百瀬小学校に赴任しました。地域の活性化に興味があり、中野村区の上野地の青年団を復活させ、盆踊りを復興しました。3年後、平谷小学校に転勤となり、たまたま湯之原に宅地を見つけて住み着きました。その頃、既に湯之原の盆踊りの灯は消えていました。

中西さんの本当の願いは出身地・旭の盆踊りの復活でしたが、過疎で不可能と悟り、湯之原の盆踊りの復活に情熱を傾けました。まず、助成金を申請し、盆踊りの用具一式を整備。総代の大前憲視さんがバックアップし、復活を遂げました。

長い間、盆踊りが中止だったため、なかなか踊り手が集まらず当初は苦労したそうですが、現在は軌道に乗っています。

盆踊りは8月15日に公会堂（公民館）で開催されます。湯之原は野外では行いません。踊りのレパートリーは10曲余りです。風流系太鼓踊りは、西川大踊保存会の太谷芳史さんの協力を得て、2020年に「小鷹」を、2021年に「大踊」を復活しました。

湯之原の大踊は小原、武蔵と形式的には共通点が多いのですが、前半の「元うた」の部分は、武蔵では男性と女性が交互に歌いますが、湯之原では男性のみです。小鷹は、首から下げた太鼓を打ちながら踊ります。あまり大きな動きはなく、静かな風格のある踊りです。

ばか踊は全体的に動きが大きく、扇を二枚とも手前に裏返す動きが特徴的です。なかでも「おかげ踊り」は技術的に相当難しく、太鼓のリズムでカウントすると92拍でもって一区切りという長大な踊りとなっています。おそらく十津川のばか踊りのなかでは、この踊りが最も長いといえるでしょう。（中川）



湯之原

撮影：田花三蔵



湯之原

撮影：十津川村役場



湯之原

撮影：中川眞